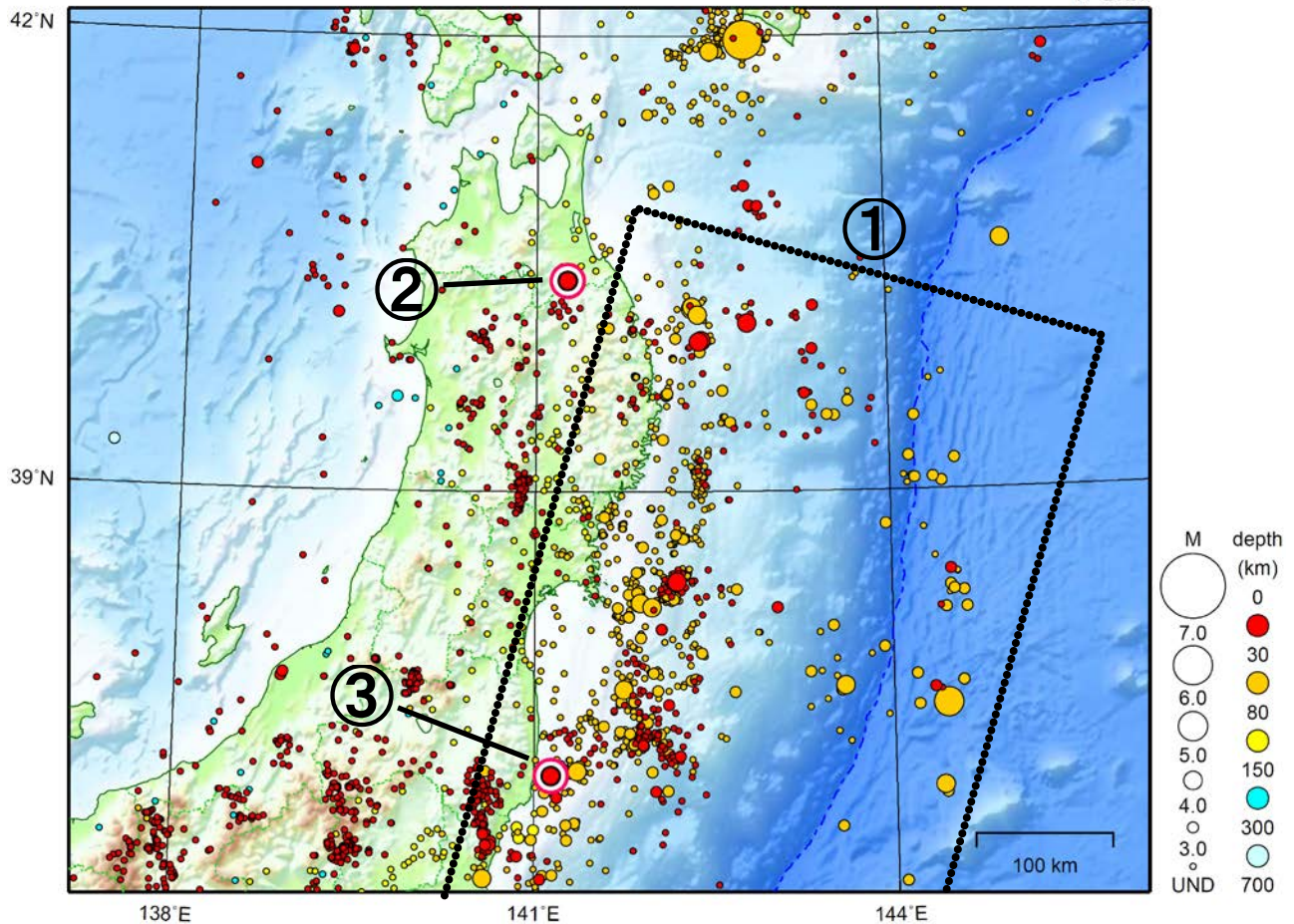


東北地方

2016/01/01 00:00 ~ 2016/01/31 24:00

N=2526



※ 点線は「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」の余震域を表す

地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① 1 月中に、「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」の余震域内では M5.0 以上の地震が 1 回発生した（関東・中部地方も参照）。また、最大震度 4 以上を観測する地震が 1 回発生した。

以下の③の地震活動は、東北地方太平洋沖地震の余震域内で発生した。

- ② 1 月 11 日に青森県三八上北地方で M4.6 の地震（最大震度 5 弱）が発生した。
- ③ 1 月 25 日に福島県沖で M4.2 の地震（最大震度 4）が発生した。

（上記期間外）

2 月 2 日に岩手県沖で M5.6 の地震（最大震度 4）が発生した。

〔上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。〕

平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震の余震活動

2016 年 1 月は、領域 a（「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」の震源域及び海溝軸の東側を含む震源域の外側）で M5.0 以上の地震は 1 回発生した。また、最大震度 4 以上を観測する地震は 1 回発生した。

2011 年 3 月 11 日に発生した「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」の余震活動は次第に少なくなっているものの、余震域の沿岸に近い領域を中心に、本震発生以前に比べ活発な地震活動が継続している。

領域 a で 2016 年 1 月に発生した M5.0 以上の地震は以下のとおり。

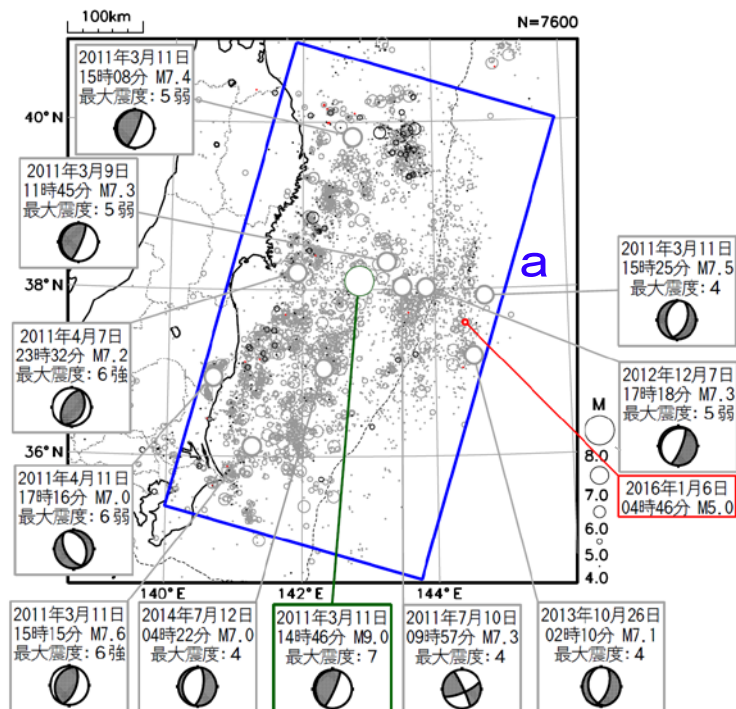
2016 年 1 月に領域 a 内で発生した M5.0 以上の地震

発生日時	震央地名	M	Mw	最大震度	発震機構（CMT 解）
01月06日	福島県沖	5.0			

震央分布図

（2011 年 3 月 1 日～2016 年 1 月 31 日、深さすべて、 $M \geq 4.0$ ）

2011 年 3 月からの地震を薄く、2015 年 1 月から 2015 年 12 月の地震を濃く、
2016 年 1 月の地震を赤く表示。発震機構は CMT 解。

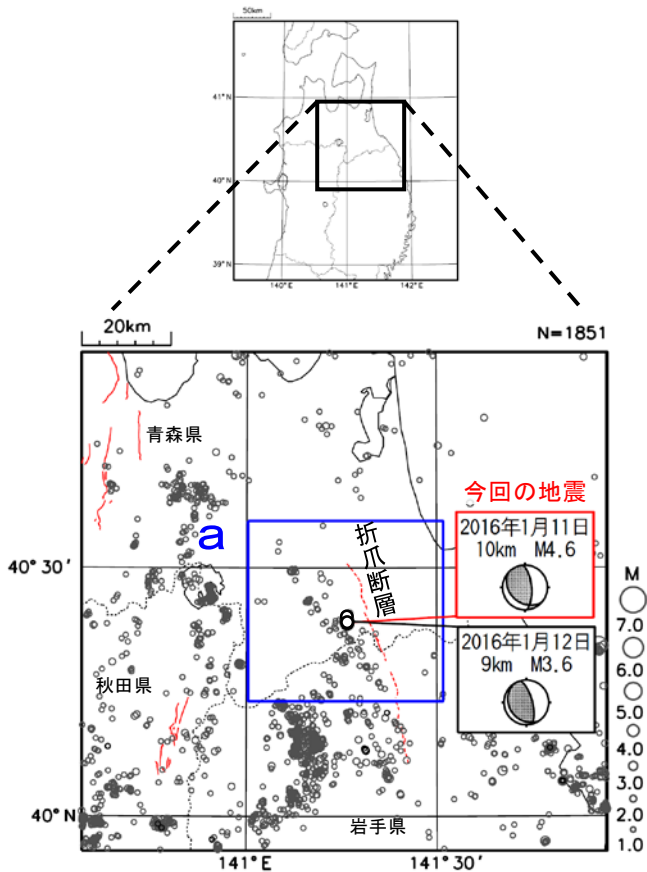


領域 a 内の M7.0 以上の地震と
2016 年 1 月に発生した M5.0
以上の地震に吹き出しをつけた。



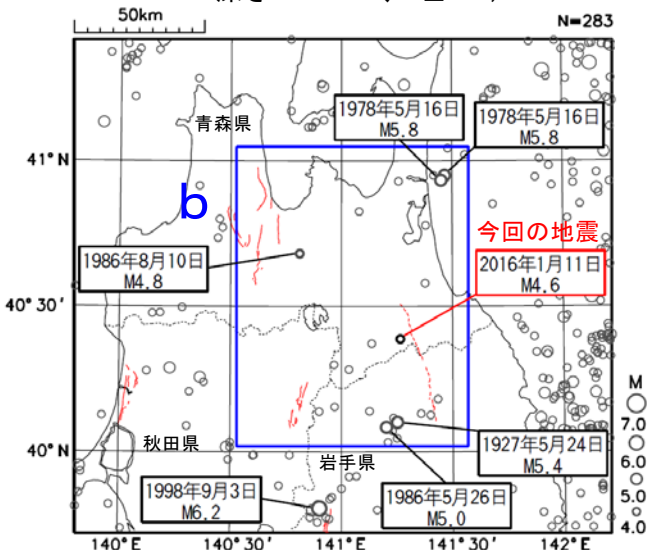
1月11日 青森県三八上北地方の地震

震央分布図
(2002年10月1日～2016年1月31日、
深さ0～30km、 $M \geq 1.0$)
2016年1月の地震を濃く表示



図中の細線は、地震調査研究推進本部による主要活断層帯を示す

震央分布図
(1923年1月1日～2016年1月31日、
深さ0～50km、 $M \geq 4.0$)



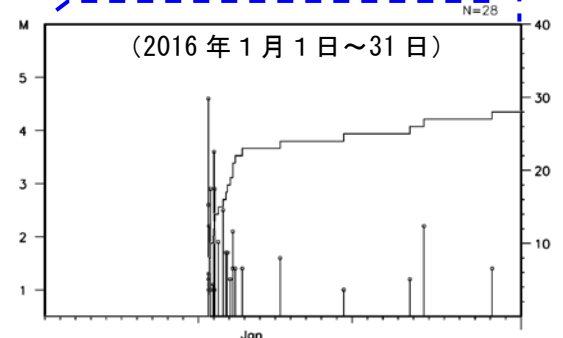
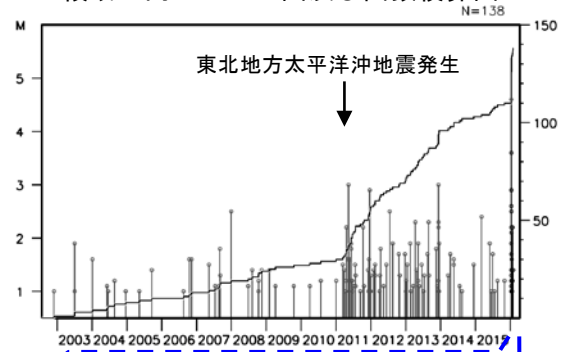
図中の細線は、地震調査研究推進本部による主要活断層帯を示す

2016年1月11日15時26分に青森県三八上北地方の深さ10kmでM4.6の地震(最大震度5弱)が発生した。この地震は、地殻内で発生した。発震機構は、東北東-西南西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。震度1以上を観測した余震は7回発生している。

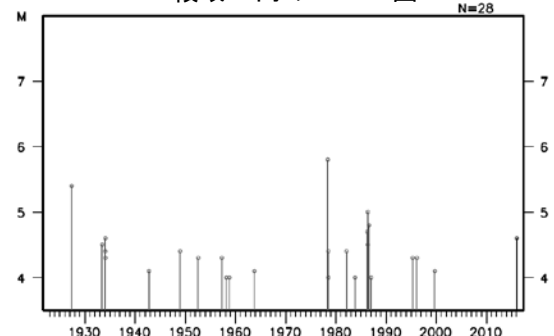
2002年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近(領域a)では、「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」発生以前は、M2前後の地震が数年に1回発生する程度で、地震活動は低調であった。同地震発生以降、今回の地震の近傍で地震活動がやや活発になっている。

1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺(領域b)では、M5.0以上の地震が4回発生している。1978年5月16日に、M5.8の地震が2回発生し、これらの地震によりモルタル壁の剥落、ブロック塀の破壊等の被害が生じた(被害は「日本被害地震総覧」による)。

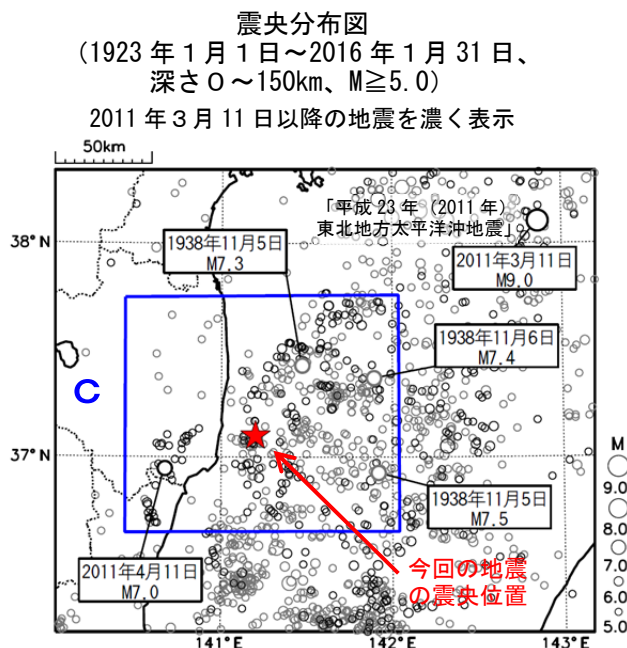
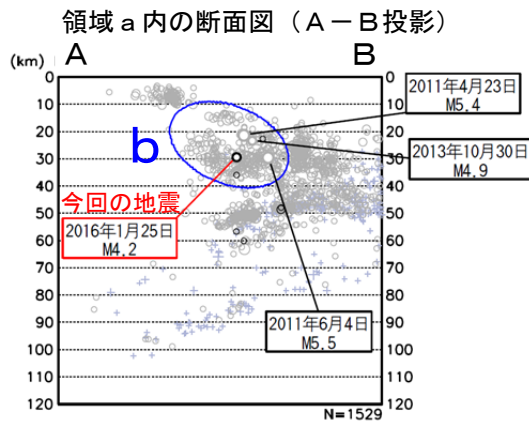
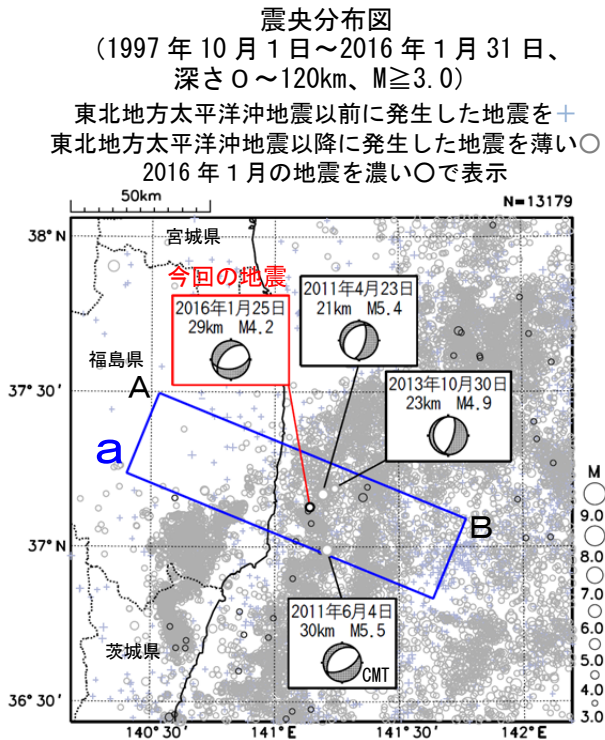
領域a内のM-T図及び回数積算図



領域b内のM-T図



1月25日 福島県沖の地震

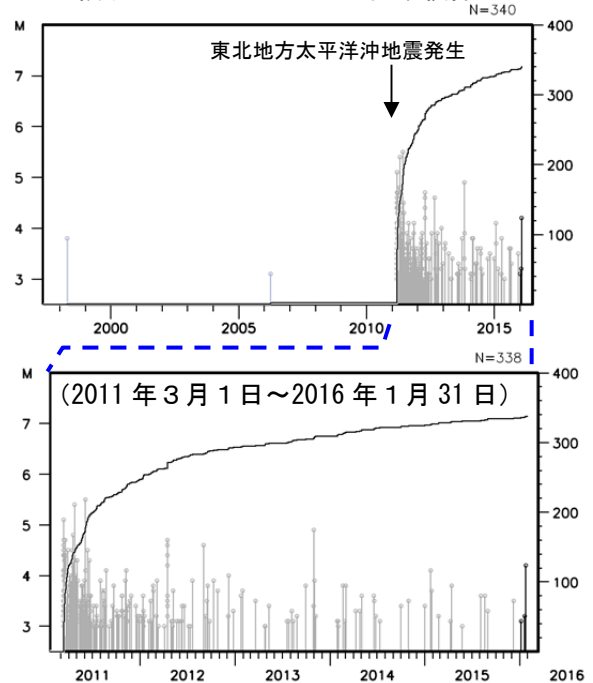


2016年1月25日02時13分に福島県沖の深さ29kmでM4.2の地震（最大震度4）が発生した。この地震は発震機構が北北西-南南東方向に張力軸を持つ正断層型で、陸のプレート内で発生した。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域b）では、M4.0以上の地震は発生していなかったが、「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」の発生以降、M5前後の地震が発生するなど、地震活動が活発になっている。

1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、M6.0以上の地震が時々発生している。2011年4月11日にM7.0の地震（最大震度6弱）が発生し、死者3人、負傷者10人の被害が生じた（被害は総務省消防庁による）。

領域b内のM-T図及び回数積算図



領域c内のM-T図

